

市民生活分野

健康・福祉・医療分野

市民生活分野

VII 3 住みよい生活環境の整備 循環型社会の推進

現状と課題

金沢市では「循環型社会構造への転換」をめざし、単にごみの適正処理といった公衆衛生の向上だけに留まらず、ごみの発生を抑え、資源として再利用するために、ごみの分別収集や資源化中間処理施設の整備等を進めてきました。

今後は、「循環型社会構造への転換」をさらに一歩進め「循環型社会の推進」を図

っていかなければなりません。このためにはまず、できる限り「ごみの発生を抑制すること」、次にごみとなったものについては「資源の循環的な利用（再使用、再生利用、熱回収）をいっそう推進すること」が重要であり、民間活力の導入等により資源化の新しいルートを確認することが求められています。

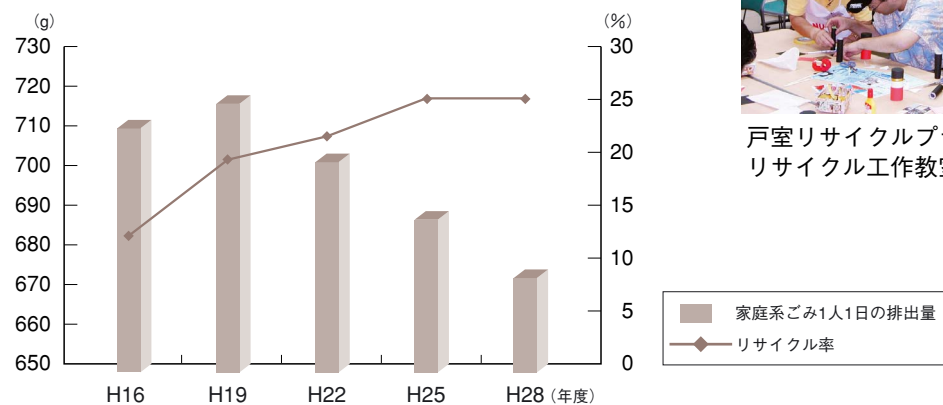


ごみの排出抑制の取り組み



戸室リサイクルプラザ及びリサイクル工作教室

■1人1日排出量とリサイクル率の推移予測



基本方針

循環型社会の実現に向けて、生産・販売・消費から、ごみの排出までの一連の経済活動の中で、ごみの発生・排出抑制を進めるため、誰もが参加しやすく、円滑な資源回収の仕組みを作るとともに、民間の処理

能力を生かした資源化処理体制を構築していきます。また、持続可能な社会の形成に向けての市民、事業者及び地方行政の役割について、地域社会全体が認識し、行動するように働きかけていきます。

事業計画（主な事業とその内容）

〔ごみ減量の啓発・指導〕

市民に対して、「ごみの分け方・出し方」等のパンフレットの全戸配布や町会等各種団体への説明会を通して、ごみの分別やステーション管理の重要性を周知し、ごみの減量、再使用、リサイクルを啓発します。

を循環型社会推進のベースキャンプと位置づけ、市民が親しみやすい講座やイベント等を開催します。

〔民間リユースの拡大〕

ごみとして排出する前に、再使用可能なものは民間において積極的に活用してもらうよう普及啓発を行います。その1つとして、学生を対象に大学内もしくは大学間での不用品交換システムの構築等を推進します。

〔循環型社会推進のための次世代（子ども）啓発〕

次世代を担う子ども達に対し、循環型社会を形成・推進することの重要性を認識する“きっかけ”となるような講座やイベントを実施し、子どもたちを育成していく活動を行います。

〔リサイクルの促進〕

古紙については、集団回収の登録団体の規制を緩和するとともに、地域回収拠点を設置します。また、戸室リサイクルプラザ

〔事業系廃棄物の資源化の促進〕

資源化されていない品目を資源ごみとして分別収集し、資源化処理を行うには、排出事業所における高度な分別排出が必要なことから、事業所に理解と協力を得るための啓発活動を推進します。

市民参加と協働

- ・町会を中心としたごみ収集活動の効率化
- ・廃棄物対策推進員や金沢53ダイエットネットワーク[※]等との連携によるごみ問題への対処
- ・学生を対象とした不用品交換システムの構築

※金沢53ダイエットネットワーク
市民や事業者で構成された、ごみ減量を中心に新しい取り組みを実践するボランティア組織。

市民生活分野

健康・福祉・医療分野

市民生活分野

VII

3 住みよい生活環境の整備

適正なごみ処理と環境負荷を抑えた処理施設の確保

現状と課題

より快適で便利な生活様式を追求し続けてきた結果、大量生産・大量消費型の社会が生まれ、大量のごみが発生することとなりました。また、技術の進歩に伴ってごみ質も多様化するなど、ごみの適正処理がわれわれにとって大きな負担となってきました。一方、これからのごみ処理行政では、ごみの発生を抑え、資源として再利用する

「循環型社会」を形成していくことが求められています。そのため、ごみの減量化施設・資源化施設など、循環型社会形成の基盤となる効率的なごみ処理施設を整備していくとともに、環境負荷を極力抑えながらごみの適正処理を確保していくことが、重要な課題となっています。



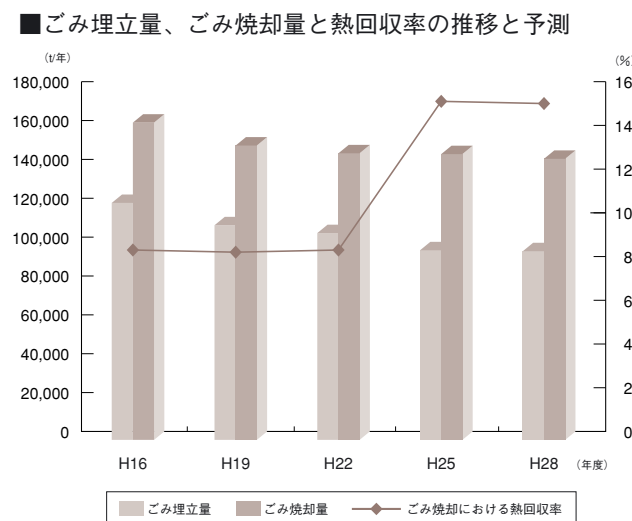
西部クリーンセンター



東部クリーンセンター



埋立場



基本方針

各家庭や事業所から発生するごみを収集運搬し、処分するまでの各段階において、適正な処理が行われる体制を確保します。また、今後改築するごみ焼却施設では、環境負荷を極力抑えるとともに、エネルギー

の有効活用をいっそう推進します。一方、最終処分場については、産業廃棄物の搬入規制を段階的に強化することで現行埋立場の延命化を図るとともに、次期埋立場の整備を進めます。

事業計画（主な事業とその内容）

〔西部クリーンセンターの改築〕

新しく建設する西部クリーンセンターでは、焼却残渣をスラグ化[※]し、資源としての有効活用を図るとともに、最終処分場[※]の延命化に努めます。また、焼却処理した際に発生する廃熱については、発電や周辺施設へ熱供給するなど、エネルギー利用の効率化を検討します。

〔埋立場の延命化〕

現在埋立中の戸室新保埋立場では、「あわせ産廃」[※]施設として7品目の産業廃棄物の搬入を認めています。そこで、木くず、がれき類等の産業廃棄物を順次、段階的に搬入禁止としていくことで、埋立場の延命化を図ります。

〔東部クリーンセンターの基幹的改良〕

稼働より15年が経過した東部クリーンセンターでは、焼却炉等の大規模改修を行い、基幹的設備の機能回復を図ります。

〔次期埋立場の整備〕

次期埋立場を整備することで最終処分場を確保し、廃棄物の適正処理を行います。

市民参加と協働

- ・地域住民の協力によるごみ処理施設の建設・整備
- ・廃棄物の減量化、適正処理に向けた事業者の協力

※スラグ化
一般家庭ごみの焼却灰を、加熱溶解したあと冷却することで結晶化しセラミック状となった安全な固化物とすること。

※最終処分場
焼却処理や破砕処理等により、減量化または安定化するための中間処理を行った廃棄物を、最終的に埋立処分する施設。

※あわせ産廃
日常生活から生じる一般廃棄物と合わせてそれぞれの市町村が処理している産業廃棄物のこと。

市民生活分野

健康・福祉・医療分野

市民生活分野

VII

3 住みよい生活環境の整備

墓地・斎場の整備

現状と課題

金沢市には4箇所の市営墓地があります。このうち野田山墓地は、藩政時代から続く山間地の地形を活かして設けられた墓地であり、5~6万基の墓石が建立されていますが、参道や植栽の荒廃が進んでいます。また、市民の市営墓地需要も強く、安定的な墓地の提供も行う必要があります。今後は核家族化等による墓地の無縁化や散骨、新たな葬法の出現など、慰霊に対する意識変

化に対応した整備が求められます。一方、本市には2箇所の斎場がありますが、火葬設備を中心に施設の老朽化や不具合が表面化し、業務に支障を来すようになっていきました。しかし、新規立地による建て替えは困難であることから、予防的な修繕を強化し、できるだけ長く現有設備を継続使用する必要があります。



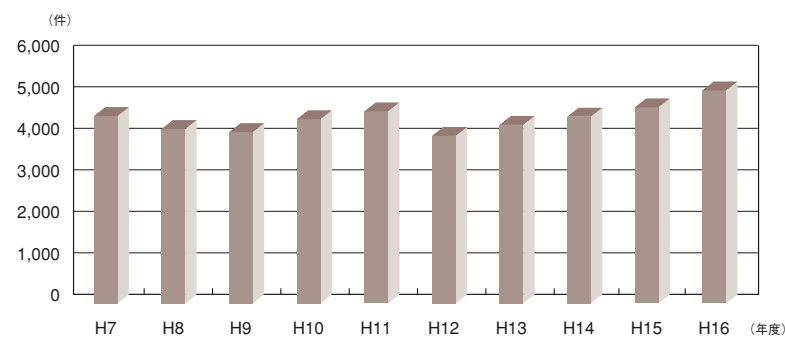
野田山墓地



内川墓地公園

墓地名	野田山墓地 (平成墓地を含む)	奥卯辰山墓地公園	内川墓地公園	末広墓地
総面積	417,700㎡	217,194㎡	204,790㎡	14,766㎡
区画数	約13,000区画	4,069区画	4,500区画(予定)	約130区画
備考			第1期造成のみ	

■火葬件数の推移



基本方針

核家族化や少子化等による墳墓の無縁化、慰霊に対する意識の変化など、時代の流れに沿った墓地整備を進めます。また、斎場については火葬設備の適切な予防修繕とメンテナンスを実施し、継続使用を進めていきます。

事業計画 (主な事業とその内容)

〔野田山墓地の整備〕

計画的な旧墓地の無縁墳墓整理を行うとともに、利便施設の整備、参道の拡幅、再貸付等の整備を進めます。また、山側環状開通に伴って変化する周辺環境に対応し、自然との共生と景観・墓参環境に配慮した野田山墓地全体の再生を進めていきます。

〔斎場施設の計画修繕〕

火葬炉等の各施設について、耐用年数等の基準に基づいて部品の交換、調整、清掃等を含めた修繕計画を策定・実行し、業務の安全で効率的な執行と費用の平準化を図ります。

〔内川墓地公園の造成〕

自由墓域等の市民の墓地需要に応えるため、内川墓地公園第2期工事(2,900区画予定)を進めます。また、市民の慰霊に対する考え方を調査し、これを踏まえた施設の整備・充実を図ります。